

石の負ひ方は鳥渡六ヶ敷様に見ゆれども、少しく稽古すれば他人の助けを得ずして子守の手一つに容易に負ふことを得るに至るべし、而して子守は毎休憩時間に嬰兒を卸してはいかり(兩便)をさせ少し遊ばせて再び負ひ直すを以て常に正しき負ひ法とするなり。

乳の少きを多く出す法

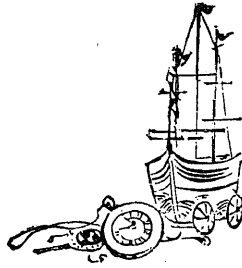
相州腰越 平岩學洋

世には子を持ちて乳の出ない爲めに命の掛代へといふてもよい様な愛子を自分の膝下に於て育てる事が出来ない爲めにやむを得ずさと子に出し、或は乳母を雇ひて養育するのでありますが、中々自分の膝下に於て育てるやうにはまいりません、實に母親の爲めにも其の子のためにも甚だしき不幸

でござります、私は此等不幸諸君の爲めに乳の少きを多く出す新法を御紹介申し升、これは私の明友の細君の兼て實行して其の効を表したのであります。

先づ極上等の餅米二升をいり鍋にて少し煎りまして、其れを挽臼にて細末にひきまして極く細かなる篩にて通すのであります、そふして其の粉を黒胡麻の粉三合と、午莠種の粉末二合と、以上三種とをよく混合して、更に最上等白砂糖百二十匁を加へまして能く攪拌まはしてこしらへるのであります、用法は毎日三回(朝晝晩)一度に六匁宛を白湯にて内服するのであり、食事の前後何づれにても差支へはなきなれ共、經驗上からは食事の前がよい様であり升、斯様に引續きまして用ゆる事三ヶ月間なれば、乳の出でくることだんく

と多くなるのであります、且つ此の法を用ひま  
 して出るところの乳は子供の爲めに宜しくありまし  
 て大に其の健康を助けます、



記憶に關すること

松本孝次郎



記憶といふことは一言すれば簡單なれど精密に  
 言ふことは難いことである。普通心理學では記憶  
 の三階段といふことをいふ。これは即ち、把住  
 復起、再認である。把住は一度經驗したことを思  
 ひ出すまで心に留めて置くことで、復起といふの  
 は覺えた事を思ひ出す事、再認といふのは思ひ出  
 した事は一度自分が經驗した事であると認むる  
 ことである。

記憶に於て復起と再認と何れか重いかといふこ